



マルハニチロ株式会社

2016年9月期連結決算

代表取締役社長 伊藤 滋

2016年11月15日

1. 事業環境

日本経済

- **緩やかな回復基調で推移も、**
 - **新興国経済の減速**
 - **欧州経済の先行き不透明感**

が国内経済を下振れさせるリスクとなる状況
- **個人消費は「節約志向」+生活の質の向上を重視する「選別消費」の傾向**

マルハニチログループ

- **中期4ヵ年経営計画「Challenge toward 2017」の後半2年がスタート**
- **テーマは「成長への挑戦」**
 - ⇒ **「持続的な成長の実現」と「中長期の企業価値向上」に取り組む**
- **「完全養殖マグロ事業の拡大」、「グローバル領域における収益拡大」及び「機能性表示食品の新商品発売」による「成長路線の遂行」**

2-①. 経営課題への取組み状況【課題事業改善】

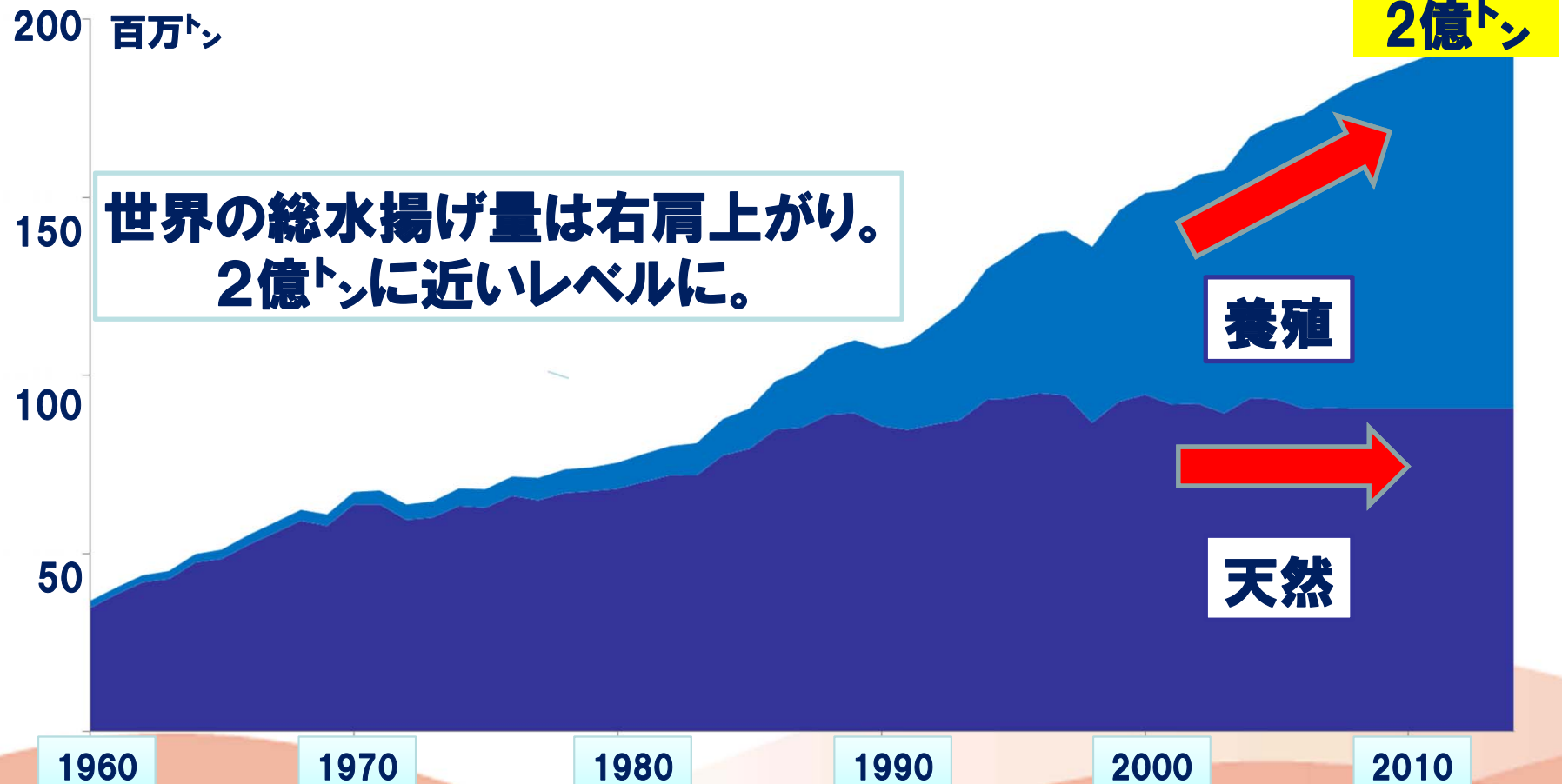
- ◆ 2015年度の営業利益は170億円
- ◆ 課題事業改善で**常時200億円強**の営業利益を生み出す基盤が構築される

2015年度 営業利益	課題事業		2015年度 営業利益	営業利益 合計	①～⑥が改善 (=±0)の場 合の営業利益
	①	②			
170億円	①	マレーシアえび養殖	▲8億円	▲54億円	常時 200億円 以上へ
	②	北米鮭鱒事業	▲10億円		
	③	アクリ冷凍食品事業	▲15億円		
	④	魚肉ソーセージ事業	▲7億円		
	⑤	デザート事業	▲6億円		
	⑥	ロングライフチルド食品事業	▲8億円		

課題事業の改善で新たな成長路線を着実なものへ

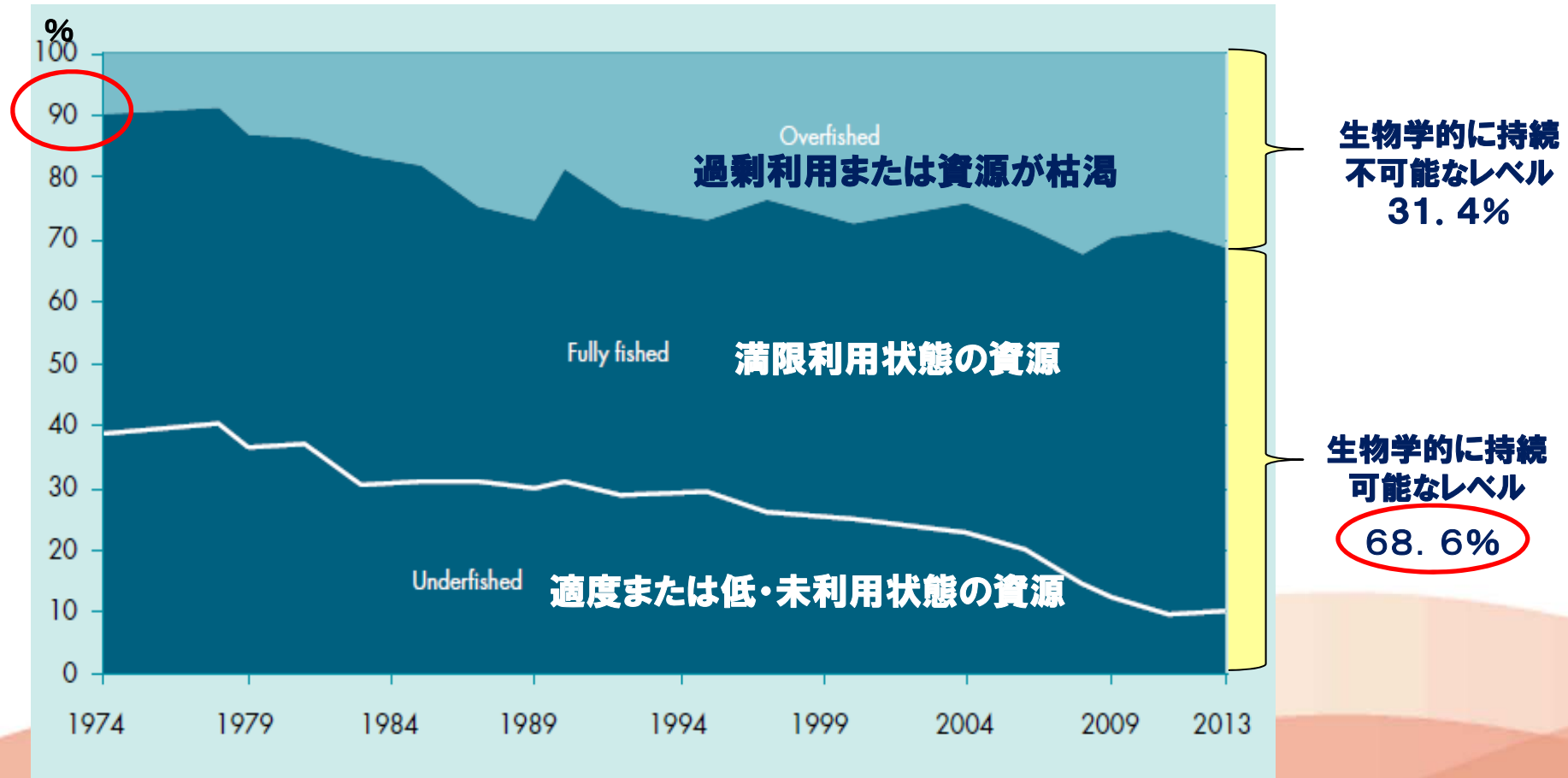
2-②. 経営課題への取組み状況 【成長に向けた取組み ～資源アクセス～】

世界の総水揚げ量



2-②. 経営課題への取組み状況 【成長に向けた取組み ～資源アクセス～】

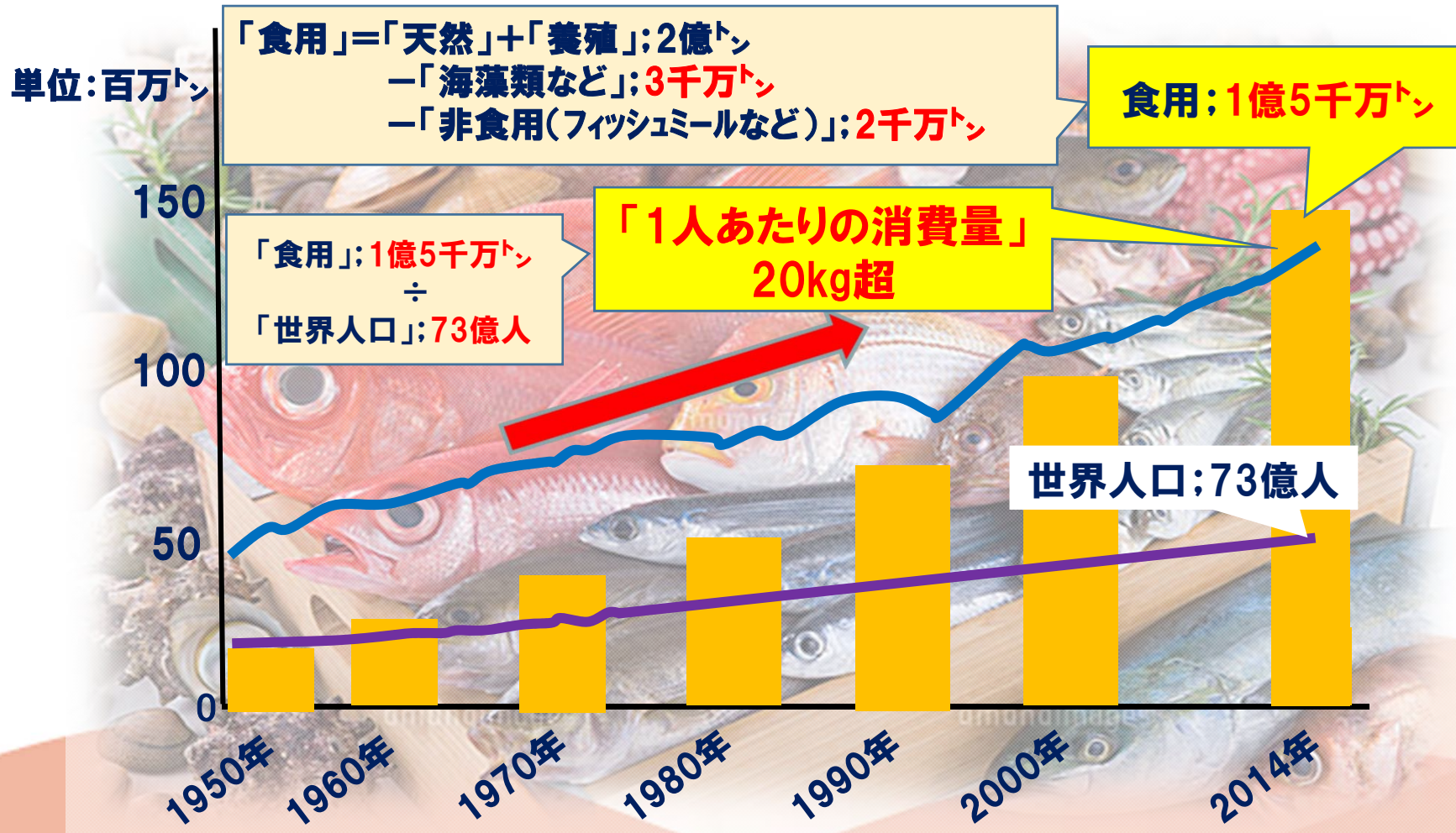
世界の資源状況



資料: The State of World Fisheries and Aquaculture 2016

2-②. 経営課題への取組み状況 【成長に向けた取組み ～資源アクセス～】

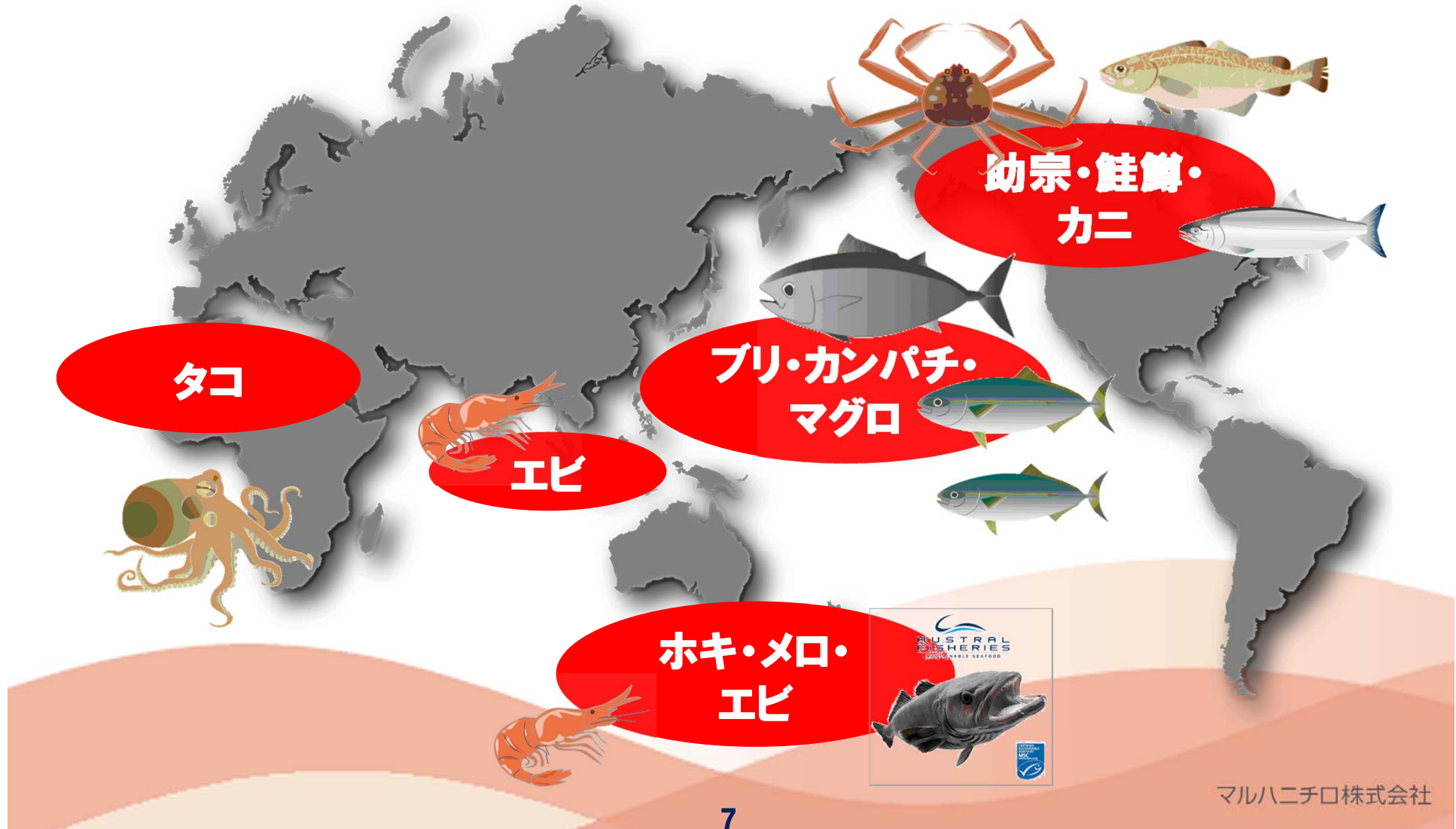
世界の水産物の需要と供給



国連食糧農業機関(FAO)「世界漁業養殖業白書」

2-②. 経営課題への取組み状況 【成長に向けた取組み ～資源アクセス～】

マルハニチロの資源へのアクセス



2-②. 経営課題への取組み状況 【成長に向けた取組み ～資源アクセス～】

アラスカ生産拠点（母船3隻 陸上3工場）



2-②. 経営課題への取組み状況 【成長に向けた取組み ～資源アクセス～】

2014年9月
オーストララル フィッシュリーズ
マルハニチログループに



AUSTRAL
FISHERIES
SUSTAINABLE SEAFOOD



2-②. 経営課題への取組み状況

【成長に向けた取組み ～資源アクセス～】

ニュージーランド総漁獲枠 70万t

ニュージーランド
Sanford社
株式取得

16万t
23%

ホキ・イカ・スキャンピー・シルバーほか

2-②. 経営課題への取組み状況

【成長に向けた取組み ～資源アクセス～】



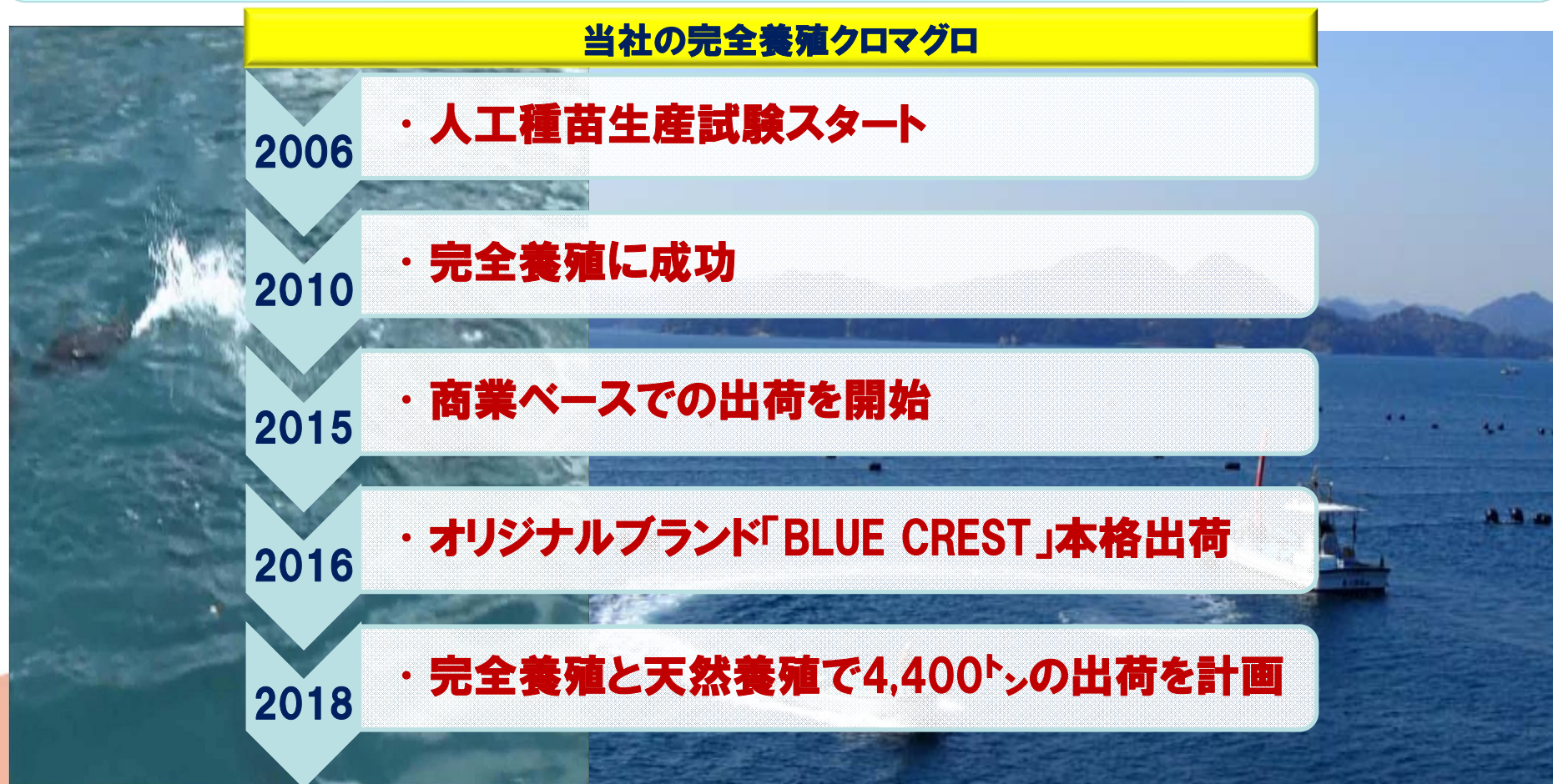
マルハニチロの資源アクセスへの取組み

- 北米において、持続可能な天然水産資源に対して大きな漁獲枠と生産拠点を保有
- 2014年9月には、オーストラリアの経済水域内で、高級魚であるメロの漁獲枠の内、約7割のシェアを保有するオーストラルフィッシュリーズ社を子会社化
- ニュージーランドにおける経済水域内の総漁獲枠約70万トンの内、16万トン、23%シェアの最大の枠保有会社 Sanford社への出資

2-③. 経営課題への取組み状況

【成長に向けた取組み ～クロマグロ養殖～】

- ◆2015年民間企業として初めて完全養殖クロマグロを出荷
- ◆2018年度には完全養殖＋天然養殖で4,400トンの出荷を予定



2-③. 経営課題への取組み状況

【成長に向けた取組み ～クロマグロ養殖～】

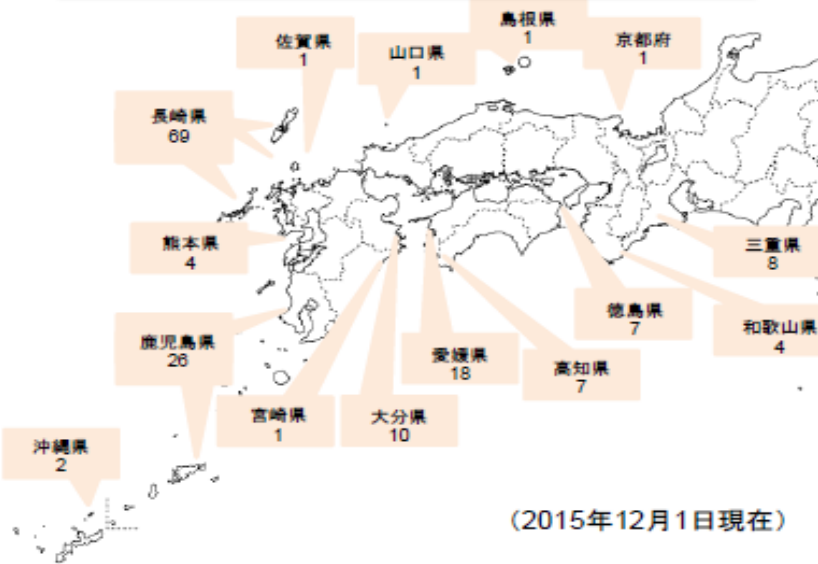
◆現在資源管理強化のため人工種苗以外の養殖場は新設不可に

クロマグロ養殖の実績報告の義務化

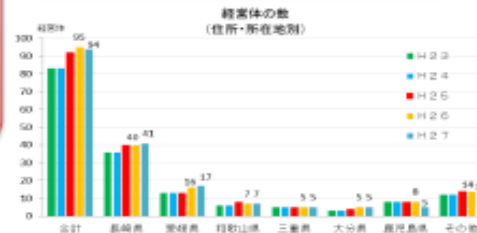
- クロマグロ養殖業者に対して、国が養殖実績（養殖施設の設置状況、種苗の入手先、活込み状況、移送状況及び出荷状況）の報告を義務付け

暦年毎にとりまとめ、2011年分から公表（毎年3月）

全国のクロマグロ養殖場
全国計：160漁場



経営体の数
全国計：94経営体



注1：個人にあっては住所、法人にあっては本社の住所により計上
注2：その他は、東京都、鳥取県、山口県、徳島県、高知県、佐賀県、熊本県、沖縄県

県別経営体の数(のべ数)
全国計：103経営体



注1：府県内にクロマグロ養殖場を有する経営体数を計上
注2：1養殖業者が複数の府県で養殖を行っている場合にはそれぞれの府県で重複して計上
注3：その他は、三重県、京都府、鳥取県、山口県、徳島県、佐賀県、熊本県、宮崎県、沖縄県

クロマグロ養殖の管理強化に関する大臣指示

2012年10月26日以降、

2012年10月26日発出

- ① 各県の1年当たりの天然種苗の活込尾数が2011年から増加するような養殖漁場の新たな設定を行わないこと。
- ② 生け簀の規模拡大により各県の1年当たりの天然種苗の活込尾数が2011年より増加することのないよう、漁業権に生け簀の台数等に係る制限・条件を付けること。

* 人工種苗向けの漁場は、上記指示の適用外

2-④. 経営課題への取組み状況

【成長に向けた取組み ～冷凍食品事業～】

- ◆ 大江工場（山形県）に新技術を取り入れた米飯新ラインを導入
- ◆ 新商品「**新中華街 炒飯の極み【えび五目XO醤】**」を発売開始

市販用冷凍食品市場前年対比	
	調理品 ＋ 農産品
市場全体	101.9%
当社	100.7%

※SCIデータ【調理品＋農産品】の
上期（2016/4～2016/9）の100人当
たり購入金額の前年対比より

【市販用冷凍食品市場】

- 市販用冷凍食品市場全体では、上期は前年比**101.9%**。

【当社の状況】

- 当社も**100.7%**と前年を上回り堅調。
- 大江工場(山形県)に新技術「**高温あおり炒め製法**」を取り入れた新ラインを導入。
- 新商品「**新中華街 炒飯の極み【えび五目XO醤】**」を9月発売
→主力商品である「**あおり炒めの焼豚炒飯**」の堅調な売上
と合わせて、9～10月の2カ月間で **米飯類は前年比129%**
と好調に推移。
- 2017年4月より新石巻工場が稼働
→生産規模は6,600トﾝ。**調理冷凍食品の主力工場に**

新商品
「**新中華街 炒飯の極み
【えび五目XO醤】**」

主力商品の
「**あおり炒めの焼豚炒飯**」



新石巻工場(イメージ)

マルハニチロ株式会社

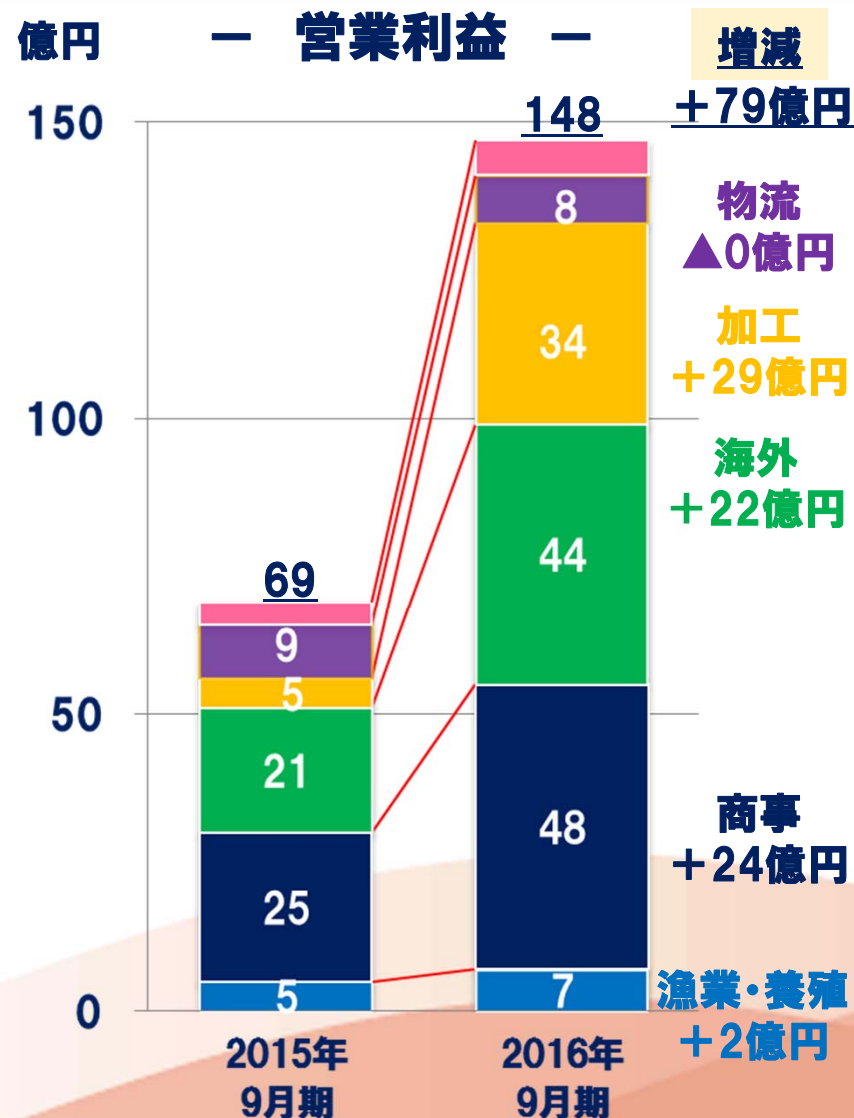
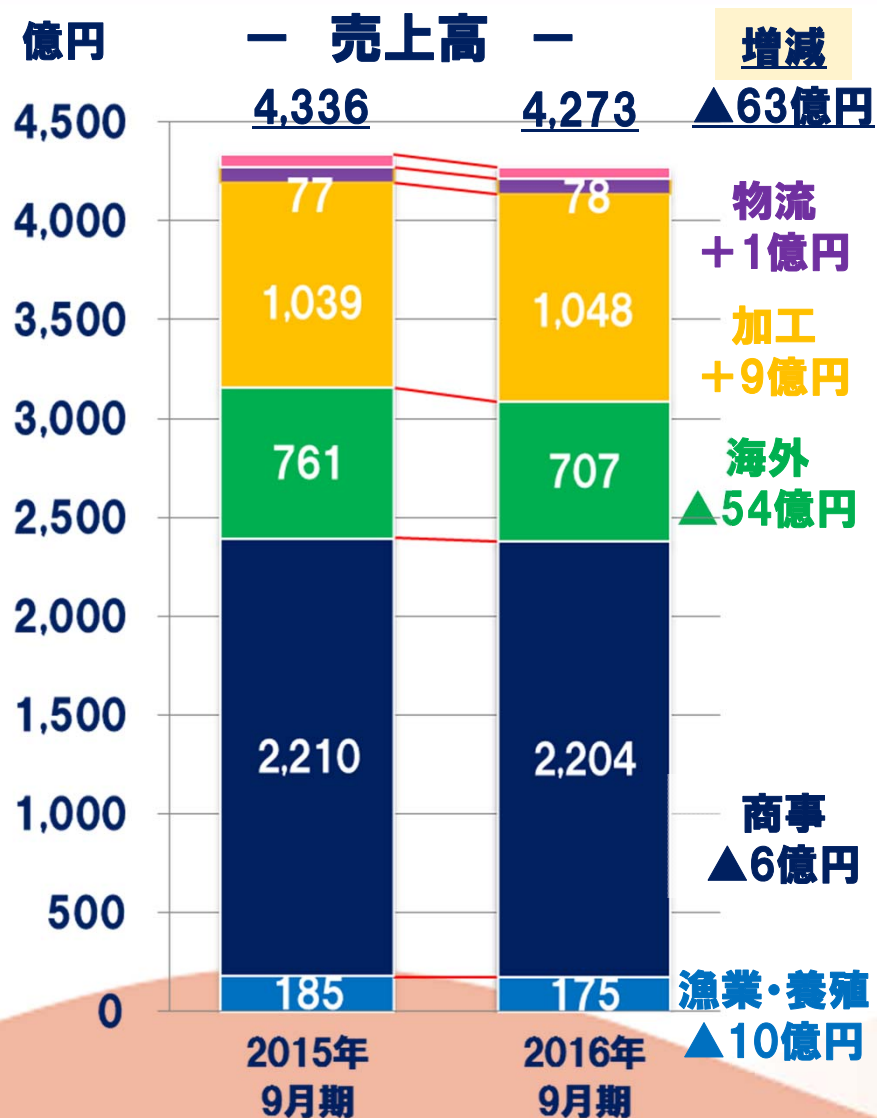
3. 2016年9月期 連結業績サマリー



- ◆ 売上高は円高による海外売上高の減などにより減収
- ◆ 営業利益は全てのセグメントにて増益。148億円は9月期過去最高益

(億円)	2016年 9月期実績	2015年 9月期実績	増減	前年比
売上高	4,273	4,336	▲63	▲1.5%
営業利益	148	69	79	114.9%
経常利益	138	77	61	79.8%
税金等調整前 四半期純利益	135	89	47	52.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	88	47	41	88.4%
1株当たり四半期純利益	167.82円	89.08円	-	-

4. セグメント別 売上高／営業利益



※売上高に対する為替換算影響: ▲55億円

※営業利益に対する為替換算影響: ▲5億円

5. 2017年3月期通期業績予想について

- ◆ 9月期の業績を踏まえ、11月7日（月）に修正計画を発表
- ◆ 営業利益は当初計画より40億円上回る **220億円**

【ご参考】

(億円)	修正計画 (11月7日発表) a	当初計画 (5月9日発表) b	増減 a-b	中期計画 c	増減 a-c
売上高	8,700	8,900	▲200	9,000	▲300
営業利益	220	180	40	200	20
経常利益	210	180	30	190	20
親会社株主に帰属する当期純利益	110	90	20	-	-
1株当たり 当期純利益	208.98円	170.97円	-	-	-

6. セグメント別前年対比／進捗率

- ◆ 進捗率は売上高で49%も、営業利益は67%と好調
- ◆ 特に商事、海外、加工の営業利益は各7割前後となり好調

セグメント	売上高					営業利益						
	16年9月	15年9月	増減	修正計画	進捗率	16年9月	15年9月	増減	修正計画	進捗率		
漁業・養殖	175	185	▲10	352	(▲10)	50%	7	5	2	17	(▲1)	41%
商事	2,204	2,210	▲6	4,521	(▲56)	49%	48	25	24	67	(+24)	72%
海外	707	761	▲54	1,412	(▲92)	50%	44	21	22	64	(▲6)	69%
加工	1,048	1,039	9	2,123	(▲38)	49%	34	5	29	49	(+21)	69%
物流	78	77	1	158	(▲1)	49%	8	9	△0	18	(0)	44%
その他	61	63	▲2	134	(▲2)	46%	5	2	3	5	(+2)	100%
全社	-	-	-	-	-	-	1	2	△0	0	(0)	-
合計	4,273	4,336	▲63	8,700	(▲200)	49%	148	69	79	220	(+40)	67%

※()内は当初計画との差異

7-①. 事業見通し<商事セグメント>

【億円】	売上高			営業利益		
	2016年9月期	修正計画	進捗率	2016年9月期	修正計画	進捗率
水産商事	385	730 (+14)	53%	35	46 (+23)	76%
荷受	1,168	2,497 (▲23)	47%	2	4 (▲6)	50%
畜産商事	238	464 (▲77)	51%	6	9 (+4)	67%
業務用食品(商事)	413	830 (+29)	50%	6	9 (+3)	67%
商事セグメント計	2,204	4,521 (▲56)	49%	48	67 (+24)	72%

※()内は当初計画との差異

【下期事業見通し】

■ 第3Qも順調に推移し、年間計画達成は確実な見込み



7-②. 事業見通し<海外セグメント>

【億円】	売上高				営業利益			
	2016年9月期	修正計画		進捗率	2016年9月期	修正計画		進捗率
海外	230	437	(▲75)	53%	28	44	(▲1)	64%
北米	478	976	(▲17)	49%	16	20	(▲5)	80%
海外セグメント計	707	1,412	(▲92)	50%	44	64	(▲6)	69%

※()内は当初計画との差異

【下期事業見通し】

- オーストラリア・・・メロ、エビとも販売価格は堅調なるも、漁獲枠の削減等による影響が見込まれる
- タイ・・・好調な欧州向けペットフード販売増加の見込み



7-③. 事業見通し<加工セグメント>



【億円】	売上高				営業利益			
	2016年9月期	修正計画	進捗率	2016年9月期	修正計画	進捗率		
家庭用冷凍食品	292	591 (+9)	49%	11	16 (+9)	69%		
家庭用加工食品	245	500 (▲4)	49%	5	5 (+4)	100%		
業務用食品(加工)	481	976 (▲44)	49%	11	18 (+5)	61%		
化成	30	56 (+1)	54%	6	9 (+2)	67%		
加工セグメント計	1,048	2,123 (▲38)	49%	34	49 (+21)	69%		

【下期事業見通し】

- 家庭用冷凍食品事業： 米飯・麺類の販売が堅調の見込みも、CM費用、工場の設備投資による減価償却費増
- 家庭用加工食品事業： 缶詰事業は、各魚種不漁かつ高値となり苦戦を予想
デザート事業は不需要期も、限定品等の販売強化で計画どおり
魚肉ソーセージ事業は、原料コスト改善により計画どおり
ロングライフチルド食品事業は、販路拡大で損益改善をめざす



マルハニチロ株式会社

参考資料 【世界の漁業・養殖業生産量と利用】

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
	(単位: 百万トン)					
生産量						
天然漁獲量						
(内水面)	(10.5)	(11.3)	(11.1)	(11.6)	(11.7)	(11.9)
(海面)	(79.7)	(77.9)	(82.6)	(79.7)	(81.0)	(81.5)
天然漁獲量 計	90.2	89.1	93.7	91.3	92.7	93.4
養殖						
(内水面)	(34.3)	(36.9)	(38.6)	(42.0)	(44.8)	(47.1)
(海面)	(21.4)	(22.1)	(23.2)	(24.4)	(25.5)	(26.7)
養殖 計	55.7	59.0	61.8	66.5	70.3	73.8
生産量 総合計	145.9	148.1	155.5	157.8	162.9	167.2
利 用						
食用	123.8	128.1	130.8	136.9	141.5	146.3
非食用	22.0	20.0	24.7	20.9	21.4	20.9
人口(10億人)	6.8	6.9	7.0	7.1	7.2	7.3
1人当たり水産物消費量(kg)	18.1	18.5	18.6	19.3	19.7	20.1

注: 海藻類は除く、合計は複数のため必ずしも一致しない。2014年は概算値。

資料: The State of World Fisheries and Aquaculture 2016

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料の著作権やその他本書類にかかる一切の権利はマルハニチロ株式会社に属します